



カンガルーハウス
HP



みらいのとびら
HP



Instagram



YouTube

学校に行きづらさを感じている子どもたちの
居場所（フリースクール）

「カンガルーハウス」

（特定非営利活動法人 みらいのとびら）

白井壯一理事長、白井はる奈副理事長、小林敬子副理事長

住 所：〒604-8414 京都市中京区西ノ京小倉町 22-8 電 話：080-9586-4661

メール：kangaroo.nijo@gmail.com

YELL

Vol.
30



ミシンで手芸を楽しむ子ども



京の町家に フリースクール誕生

京都市中京区、JR二条駅西口から歩いて約3分の古い歴史を持つ町家に2024年4月、学校に行きづらさを感じている小中学生のための居場所（フリースクール）「カンガルーハウス」が誕生しました。平日の午前10時から午後3時まで過ごすことができ、工作、音楽、動画制作、昔遊び、読書、料理など、子どもたち自身が主体的に取り組みたい活動ができる「カンガルーのお母さんのポケット」のような、温かく優しく安心できる場を提供しています。



屋外活動を楽しむ子どもたち

誕生のきっかけ

カンガルーハウスが誕生したのは、あの出来事がきっかけでした。それは、白井壯一さん(NPO法人みらいのとびら理事長)とはる奈さん(同・副理事長)夫妻の子どもが、学校に行き渋るようになったこと。はじめの頃は、はる奈さんは嫌がる子どもを無理に引っ張って学校へ連れていたり、子どもと一緒に授業を受けるなどして、「何とかして学校生活を送らせよう、

授業に出席させよう」としました。ところが子どもは心の調子を崩していき、教室で過ごすことが怖くなって過呼吸を起しそうになったり、机の下に隠れてしまうということもありました。そんなわが子の様子を見ながら、はる奈さんは「何か違うんじゃないか」と思うことが増えていき、医師のアドバイスもあって、子どもは学校を休むことになりました。

こうした経過において、はる奈さんは、子育てを間違えたのかと自分を責め、うつ的な状態となりました。壯一さんとはる奈さんとはる奈さんは作業療法士で、はる奈さんは作業療法士を養成している大学の教員をしていましたが、「すごくしんどい。この先どうなるんだろう。仕事も辞めないといけないのかな」と、大きな不安が押し寄せてきました。

そんな時、10年以上前から絵本の読み聞かせなど地域の活動を一緒にやってきた友人の小林敬子さんから、「学校に行きづらい子どもたちのための『学校』(＝フリースクール)を、二条に作ろう」と提案されます。小林さんは元小学校教師で、「二条駅かいわいまちづくり実行委員会」の委員長として、子どもたちを取り巻く状況、そして地域環境をよく知っています。その提案を聞いてはる奈さんは「ええっ！何を言わはんの？」と本当に驚きま

した。しかし、作業療法士という仕事を通じて、「一人一人の好きなことを生かしていったら、きつと心のエネルギーを充電できるはず」という思いを持っていたため、すぐに「それは、すごくいいかもしれないと思う。何か、光が差してきたような感じがしました」と振り返ります。

2023年7月、3人を中心に、活動に賛同する仲間らも加わって「カンガルーハウスをつくろう会」という任意団体が発足しました。「カンガルーハウス」という名称は、学校に行くことが難しくなってきた子ども達の言葉から生まれました。「カンガルーになりたい。カンガルーだったら不安なお母さんのポケットに入れて、元気になったら飛び出せる。そして、また不安になったら入れる。だから、カンガルーがうらやましい」。不安な子どもたちが安心して過ごせる「カンガルーのポケット」になるーその思いから名称が決定しました。

その後、準備を進めていく中で、後に副理事長となる小林さんがある情報をキャッチして伝えてくれました。それは、小林さんが運営している子ども食堂「ふれあいぼうむどうぞ」の2軒隣が賃貸に出るーということでした。ただ町家を借りるとなると家賃がかかること、古い町家のために改修費も必要。結局、自費で

もできるだけはやろうと一部改修工事を始めていた時、作業療法士の仲間の一人が「クラウドファンディングをやるべき。自分も一度やったことがあるから」と提案してくれました。2024年1月から3月までクラウドファンディングを実施。必要経費のうち200万円を調達する目的で始めたところ、270人から総額で431万2千円、目標の倍以上の支援が集まりました。車いすユーザーの方も利用できるように1階やトイレをバリアフリーに、さらに耐震工事を行うことができました。

「元日に能登で地震が起きて、それなのに私たちがクラウドファンディングをやっているのかな、という葛藤はありました。ですが、実際にクラウドファンディングを始めてみると、多くの方が、子どもたちのフリースクールを作ってほしいと言ってくださって。『実は、うちの子ども不登校なんです』という方、他府県の『私たちもフリースクールをやろう』と思って活動をしています』という方、『子どもは日本の宝だから、大事にしたいから応援するよ』という方。いろいろな方が同じ思いを持っているということが分かり、そして応援もしていただけことが本當にうれしかったです。カンガルーハウス実現に向けて気持ちが強くなりました」とはる奈さんは回想します。

カンガルーハウスでの活動

2024年4月から始まったカンガルーハウスの活動内容の一例は表のようになっていきます。多彩な活動が可能になっているのは、白井さん夫妻の作業療法士としての経験に基づいています。「私たち作業療法士は、一人一人が大事にしている作業が行えるように支援します。それは治すとか、教える、とかではなくて、クライアントに伴走することです。クライアントと一緒に活動しながら、一人一人の持っている力を引き出し、健康と幸福を促進する」というところに力点を置いています。だから活動内容もお子さんの希望や意見を聞きながら一緒に考えていきます」とはる奈さん。嫌々何かをやらされるのではなく、なんだか楽しそうだからやってみようかな、と心が動き、心が動くから身体も動く。これが好きだからやってみようというのが、いろんな物事をするときの原動力になればと考えられた活動が準備されています。

また、朝の心の調子で学校に行けなくなった子どもにも対応するため、当日の朝でも利用を受け付けることにしています。月、木曜日は料理の日ですが、『今日は作りたくない』という子どももOKに

しています。できるだけ本人の想いを尊重しています」という。週に1回、月に1回カンガルーハウスを利用することで、心のエネルギーをチャージしている子もいれば、毎日カンガルーハウスに来ている子、週に1回放課後登校している子もいます。

「カンガルーハウスでは、机上学習を第一義的には考えてはいないんです。それぞれが持っている力を取り戻すことからスタートし、まずは一人一人が関心のあることを中心に力をつけていってもらえたら」と、思っていますと壯一さん。「学校に復帰することが最終的なゴールではなくて、その日一日、カンガルーハウスでいい時間を過ごせる。明日は何をしようかなと楽しみにする。それを積み重ねていけたらいいな」と思っています」とはる奈さんも話します。

カンガルーハウスで行われている活動の例

手工芸	絵画、粘土、編み物、裁縫、フェルト手芸、ビーズ、張り子、缶バッジ、木工
創作遊び	レゴ、LaQ、ドミノ、鉄道玩具
ゲーム	ボードゲーム、トランプやカルタなどのカードゲーム、テレビゲーム
昔遊び	コマ回し、けん玉
音楽	電子ドラム、電子ピアノ、ウクレレ、マラカス、タンバリン
パソコン	情報を検索、地図を見る、動画制作
読書	児童書、絵本、図鑑、マンガ
園芸	野菜作り
公園遊び	鬼ごっこ、ブランコ、水鉄砲、キャッチボール、ドッジボール、長縄跳び、ゴム跳び、竹馬
料理	買い物、昼食作り、おやつ作り

子どもたちにも、地域の人たちにも変化が

白井さん夫妻だけでなく、元小学校の先生や大学生など、子どもへの理解があるスタッフに囲まれた温かな雰囲気の中で、変化がみられる子どもも現れてきました。場面緘黙^{ほめんかんもく}で利用当初は他の人と会ってもあいさつができません首を振るだけだったのが、あいさつができるようになったり、下級生に優しい言葉がけができるようになった子どももいます。大人が促さずとも、再登校できるようになった子どももいます。また、カンガルーハウスで出会った友達と一緒に、同じ大学に行きたいという夢を抱き始めた子どもも。はる奈さんは、「私たち、支援する側にとっても、元気をもらえる、未来につながる

場のように感じます。先日、子どもが『お母さんも友達が増えたね。自分もカンガルーハウスで親友ができたし、大人の友達も増えたよ』って言うてくれました」と笑顔を見せます。さらに地域の応援団も増えていきます。近隣の美容室では店の駐輪場をカンガルーハウスを利用する子どもたちに貸してくれたり、近くのお店はおすそ分けの野菜を持ってきてくれたり、募金箱を置いてくれたり。「学校に行けなくなったとしても、いざとなったらカンガルーハウスがあることが、お守りのようになっていきます」と話す保護者もいるそうです。



公園での砂遊びやドラム、弦楽器演奏と多彩な活動ができる

利用費の軽減制度も導入

特定非営利活動法人みらいのとびらでは、カンガルーハウスがより利用しやすい場所になるよう、利用費の軽減策を導入しています。ある子どもが悩みを打ち明けました「本当は毎日来たいけど、お金がかかるから週2回だけ、ってお母さんに言われている」。スタッフは今完全ボランティアですが、家賃や光熱費、活動消耗品等のため、利用料は1人1日あたり3,000円になっています。これを何とか安くできないかと、白井さん夫妻や法人の理事らは考え続けてきました。国や自治体による団体や個人への補助金があれば料金は下げられますが、京都市にはそのような補助・支援制度が現在ありません(施設と個人にそれぞれ補助金がある自治体もあります)。

「利用料をできるだけ安くできないか、特に就学援助を受けているご家庭には、何かしらの利用料軽減を考えていました。しかし今は赤字運営。自己犠牲では長く続けられないので、どうしたものかと頭を悩ませていました」とはる奈さん。

そのような時、はる奈さんは福島市の特定非営利活動法人チームふくしま(半田真仁代表理事)の活動を視察する機会を得ます。そこで「お互いさまチケット」を

知ることになります。

「お互いさまチケット」とは、団体や企業の活動を支援する人が、商品(例:飲食店のメニュー等)の代金チケットを、利用者である子どもや家庭などの代わりに支払う(寄付する)システムです。カンガルーハウスのフリースクール活動に賛同した人、子どもたちを支援したいと思った人は、「お互いさまチケット」としてカンガルーハウス利用券や給食(昼食)券を購入し、チケットを寄付。半田さんによると、フリースクールでは初めての『お互いさまチケット』の実施とのこと。『せひ多くの人に、応援してほしい』と話しています。

はる奈さんは「今、日本各地だけでなく、海外(アメリカなど)からも心を寄せて頂いています。アメリカの高校生は、英語クラブ活動のボランティアをオンラインですべて利用しています。将来、カンガルーハウスを利用して子どもたちが、多くの人たちから受けた温もりを、『温もりのリレー』として社会に還元してくれたら嬉しいなと思います。せひ多くの方に、カンガルーハウスの応援団として、子どもたちへの支援の輪に加わって頂けるととても有難いです」と話しています。

歴史のある京の町家で始まった、子どもたちが心のエネルギーを充電できる温かい場としてのフリースクール。新しい負

担軽減策も導入しながら「お互いさまチケット」などを通じた子どもたちへ優しい未来を提供する発信地になっています。



図鑑を一緒に見る子どもたち



お互いさまの街
ふくしま
HP



NPO 法人 チームふくしま NPO Team FUKUSHIMA

NPO 法人チームふくしま 代表理事
採用と共育研究所 所長

半田 真仁

志ある中小企業経営者の応援団として「採用から共育」まで一貫した支援サービスを行っている。これまで数多くの社員、職員の採用・人材育成・職場定着等に携わり、CSR(社会貢献活動)を活用した「いい会社創り」のサポーターとして定評がある。



YELL Vol. 30

2025年3月11日

発行：NPO 法人 チームふくしま

- ・防災部門
福島ひまわり里親プロジェクト
ひまわり防災検定
- ・お互いさまの街づくり部門
お互い様チケット
コミュニティフリッジひまわり

〒960-8055
福島県福島市野田町 6-7-8-B103
電話 024-529-5153
info@sunflower-fukushima.com

